

げんきハウスレポート

芦田 溪

げんきハウスは岐阜県山県市にある児童館事業と子育て支援事業の複合施設です。見た目やその目的は児童館に近いけど、子育て支援事業を兼ねることから保護者への支援も手厚いことが特徴といえると思います。また、資金源の違いも名称の違いに関わるようです。僕はこの施設に訪問して、一日ボランティアを経験することで、この施設を体験的に見ていくことができました。



児童館とどう違う？

普段は児童館として学童行事、放課後児童クラブをしています。

児童館と違う所は、子育て支援事業の業務であるお母さんサークルや親に向けた子育て支援講座、子育て支援教室の開講・・・つまりは親支援だと思われます。意外と児童館じゃないサービスですね。



親への支援って？

児童館との違いである親支援。地域の子育て中の親さん方へ働きかけ、サークルを組織したり、幼児向けお料理教室などの教室を開くことですが、その効果は大きくて、親さん方の保育への関心や能力を高めるといった目的や、密室保育を防ぐ地域支援といった側面の役割もあるとかがえています。



地域への支援って？

地域の子育て支援の拠点として、場所の提供のほか、子育てサークルなどの活動拠点としての働きや行事に関する広報をしていました。子どもたちのかわいい活動風景が壁いっぱい広がって、また遊びに行きたいなーって思っちゃいました。



子どもへの支援とその様子

げんきハウスは児童館の役割を担っているから、夏休みは子どもたちがたくさん遊びに来る。特に放課後児童クラブ(小学校のお預かりさん)は夏休みは特別に、朝は7時30分頃に来る子もいて職員さんも早起き！これは夏休み期間中だけど、保育所と同じような預かり方をしているように見えました。本来は10時までは家庭での勉強の時間。げんきハウスに来ている子たちも宿題をしていきます。勉強イヤー！って子に勉強する気になってもらうのも職員さんの悩みの種なんです。10時を過ぎるとげんきハウスが企画する活動の時間。私が見学したのは幼児向けのおはなし会と小学生向けの工作でした。小学生向けの工作では材料だけ提供して作る物は指定しない方針を取っていて、たくさんある学年それぞれが、得意不得意に合わせて自分らしい作品を作れるようにしてました。子どもにより、何を使って、何を作るか、見事に分かれてて素敵でした。午後の自由な時間にも使えるようなおもちゃを作ってる子もいて楽しかったです。幼児のおはなし会ではなかなか絵本に集中させることは難しかったけど、必ずしも絵本を読んでいるからと言って絵本に集中させる必要はないみたいで、見たい子は見て楽しむほか、幼児への読み聞かせに苦労してる保護者へのお手本にもなっているようで、お母さんたちの方が一生懸命見る様子も見られました。他にも講師を招いた保護者向けの子育て講座があって、保護者支援への前向きな姿勢も見ることができました。



げんきハウスはこんなところ！

一階は小学生たちが遊ぶスペースとなっていて、トランポリンや卓球台、おままごとスペースがあったり、外で遊べるような道具も用意されていました。

二階は幼児の遊戯室と、図書館、授乳室があって、静かな環境で子どもたちと本を読んだり、場合によっては保護者への相談支援を行えるような空間になっていました。



げんきハウスは元気いっぱい！！(げんきハウスのストレンクス！！)

げんきハウスの子どもたちはいつも笑顔で元気！時には職員さんを困らせるほどに元気で、けんかして泣いちゃう子にもみんなで慰めに行くくらい仲良し！こんな子どもたちの笑顔がこの先の未来を作っていく新たな力になるんだとうれしく思いました。

